~(一財)全日私幼研究機構理事長からのご報告~

新しい教育への模索

一般財団法人全日本私立幼稚園幼児教育研究機構



小学校就学前の要領や指針が改訂され、小学校中学校 の学習指導要領も改訂されました。「主体的・対話的で 深い学び」が目指され、一人一人の教育環境を最適化す る新常態の教育へと舵が切られました。各小中学校など でも、「知識・技能」から「資質・能力」へと取り組み が始まっています。^(表1)

表1 伝統的な教育とニュー・ノーマルの教育 (注1)

	伝統的な教育	ニュー・ノーマル (新常態の教育) の教育
1	教育制度を単体としてとらえる	教育制度をより広い生態系 (エコシステム) において捉える
2	一部の選ばれた人による意思決定	より広い関係者による意思決定
3	インプットとアウトカム	インプット、プロセス、アウトカム (特にプロセスの重視)
4	生徒の直線的な発達を前提にした、標準化されたカリキュラム	生徒の非線形の発達を前提にした、動的な力 リキュラム
5	標準化されたテスト中心の評価	「学習のための評価」「学種としての評価」を 含めた広義の評価
6	説明責任とコンプライアンス	システム改善のためのフィードバック
7	役割分担	責任の共有 (shared responsibility)
8	(教師の指示の) 聞き手としての生徒	能動的な参加者としての生徒 生徒、教師それぞれがエージェンシーを発揮

出所: OECD Eduation 2030プロジェクト (n,d) に基づいて筆者作成

これまでの日本の小中学生の学力は、OECD(経済 協力開発機構)が先進諸国を調査対象として毎年実施す るPISA(ピザ:OECD生徒の学習到達度調査)のテス トによって結果が報告されています。総括すると… (注2)

- ① 日本の子どもたちは、基本的な知識という点では世 界トップクラス
- ② 知識を創造的に使うという点でも、数学と理科につ いては世界トップクラス、ただし読解については数 学や理科より劣り、先進国の平均的なレベル
- ③ 創造性を現実的な問題解決に生かす能力は、世界トッ
- ④ 学力格差に関して、基本的な事項を理解していない 子どもは少ない。ただし、学力には社会階層の影響 が認められ、先進国と同程度に不公平な社会である。
- ⑤ 大人になったときの能力は、世界トップクラス
- ⑥ 学力の低下傾向は認められない

これまでの様々な報道やネットの教育に対する言説な どを見聴きしていると、日本の子どもたちの学びが心配 な状況にあるため、教育先進諸国を模範に教育を変えな ければならないというメッセージが公的な機関からも発 信されています。先進的教育環境視察に出掛ける教育関 係者や、識者に諸外国の学びについてのレクチャーを聴 く機会も多くあります。しかし、PISAの結果や25歳 ~35歳の学力をはかるPIAAC(ピアック:国際成人 力調査) においての数理的能力の結果を見ると、日本は

ともに世界トップクラスなのです。一方、日本の子ども の学力は高いが創造力にかけるのではないかとの言説に ついてもPISAの調査が実施されていて、これも決して 日本が低いわけではないようです。私は何の根拠もなく、 子どもたちの学習や、義務教育学校の体制が心配だ、と 思い込んでいたのですが、実は先進諸国の中でも日本が トップクラスであることは、現在も変わらない事実だと 知りました。

安家 周-

現場に新しい教育方法や形態を持ち込み、日本の教育 を大きく変化させる必要はなさそうだ、という考え方も できます。しかしOECDなどから発せられる教育の示 唆は伝統的な教育から新常態の教育へと変化が求められ ていることも事実です。^(表1)なぜこのような改革が求め られるのでしょうか。

確かに、気候変動や大きな自然災害、貧困、飢饉や世 界的な紛争の状況など、これからの時代は予定調和で右 肩上がりとはいかず、複雑怪奇な時代を共存の視点を大 切に生き延びていく人に育つための教育環境が模索され る必要があります。日本の18歳は、社会に対する主体的 な関わりや世の中に関心を示す能動性(エージェンシー: 変化を起こすために、自分で目標を設定し、振り返り、 責任を持って行動する能力) は、各国の18歳の国際比 較において著しく低いものです。^(表2)この調査結果をふ まえると、新たなる教育的課題や資質や能力を求めなけ ればならないことは明白となります。幼児教育から小学 校教育への接続も着目されています。幼児教育が大切に してきた、持続可能な地球の観点や、学びを自分事とし て捉える力、周りの人と共存し、保育を捉えなおすこと なども重要になっており、家庭と手を取り合って織りな す乳幼児期の教育/保育の重要性が今問われています。

表2 各国の若者の意識とエージェンシー (各国の18歳意識調査の結果) (注1)

	自分を大人だと 思う	自分は責任ある 社会の一員だと 思う	将来の夢を 持っている	自分で国や社会 を変えられると 思う	自分の国に 解決したい 社会課題がある	社会課題につい て、家族や友人な ど周りの人と積極 的に議論している	
日本	29.1%	44.8%	60.1%	18.1%	46.4%	27.2%	
インド	84.1%	92.0%	95.8%	83,4%	89.1%	83.8%	
インドネシア	79.4%	88.0%	97.0%	68.2%	74.6%	79.1%	
韓国	49.1%	74.6%	82.2%	39.6%	71.6%	55.0%	
ベトナム	65.3%	84.8%	92.4%	47.6%	75.5%	75.3%	
中国	89.9%	96.5%	96.0%	65.6%	73.4%	87.7%	
イギリス	82.2%	89.8%	91.1%	50.7%	78.0%	74.25%	
アメリカ	78.1%	88.6%	93.7%	65.7%	79.4%	68.4%	
ドイツ	82.6%	83.4%	92.4%	45.9%	66.2%	73.1%	
日本財団 (2019) 18借資證調查 OECD Education 2030 教育の未来 白井 俊峯							

引用、参考文献

注1:白井俊著(2020) 「OECD Educaction 2030プロジェクトが描く教育の未来 エージェンシー、資質・能力とカリキュラム」、ミネルヴァ書房

注2:小松光/ジェルミー・ラプリー著(2021)「日本の教育はダメじゃない―国際 比較データで問いなおす」、筑摩書房

ここがポイント

遊びから生まれる学びと 保育者の援助



大阪教育大学教育学部 教授/中橋 美穂

幼稚園教育要領解説(2018)には「遊びの本質は、 人が周囲の事物や他の人たちと思うがままに多様な仕方 で応答し合うことに夢中になり、時の経つのも忘れ、そ の関わり合いそのものを楽しむことにある。すなわち、 遊びは遊ぶこと自体が目的であり、人の役に立つ何らか の成果を生み出すことが目的ではない」と述べられてい ます。大人の仕事や学習などと対比するとよくわかりま すが、遊びは楽しむことが目的で、何か特定の目的を達 成することを目指す活動ではありません。大人の仕事や 学習は成果を求められますが、子どもの遊びは成果を求 められません。そのため、子どもの遊びは「成功した」 とか「失敗した」などと、評価されるものでもないのです。 幼児期の教育・保育においては、「遊び」を子どもの成長・ 発達にとって非常に重要な活動であると考えています。

写真1を見てください。5歳児の保育室前の廊下で、 3~4人の子どもが、長さの違う板状の3種類の積み木 を天井まで積み上げていました。積み木は積む際に、重 心がずれてしまうことや、傾き加減によってすぐに崩れ てしまい、高く積み上げるには技術も必要です。きっと この高さになるまで、何度も繰り返し積み木を積み上げ ていただろうことが想像できます。崩れても積むことを 繰り返すうちに、手先を器用に動かせるようになり、バ ランス感覚もつかめるようになっているでしょう。また、

写真1:5歳児が共同で積み上げた積み木

積み木を積む際には、集中力と真剣さも必要になります。 さらに、友達と息を合わせながら、互いが互いを見守り、 力を合わせている姿がありました。

子ども達はこの積み木遊びに向き合う中で、自ら感じ たり、気付いたり、考えたり、試したり、見通しをもっ たり、表現したり、折り合いをつけたりと、様々な力を つけています。こうした遊びの経験が、小学校以降の学 習・学びを支える土台となります。それゆえ、保育者は、 子どもが心を動かし、遊びに夢中になる様子から、遊び の実態を理解し、子どもの充実感や満足感につながるよ う援助する必要があります。この積み木遊びでは、足場 にする台や壊されないための囲いなどの物的環境を準備 したり、片づけずにそのまま遊び続けられる場の設定を したりと、物的・空間的環境構成への配慮が伺えます。 そして、何度も繰り返し挑戦するために必要な「時間」 への配慮も大切にしていました。

写真2は、数人の子どもたちが、戸外で体を使って影 遊びをしていた際に、偶然に友達と指を合わせて星型が 作れた時の写真です。保育者はこの瞬間を写真に撮って 印刷し、保育室に展示しました。これは、子どもたちが 生み出す新しい遊びのアイデアを受け止め、そして他児 へ発信、共有したいと願った保育者の環境の工夫の一つ です。



写真2:影遊びで作った星型

今、皆さんの園の子どもたちが夢中になっている遊び は、どのような遊びでしょうか。そして、その遊びの何 に子どもたちは面白さを感じたり、こだわっていたりす るのでしょうか。ぜひ、同僚と共に振り返ってみてくだ さい。



これからの感染症予防について考える

特命教授/猪熊 弘子 名寄市立大学

2020年から現在まで3年の歳月を、私たちは新型コ ロナウイルスという未知のウイルスとの闘いに費やして きました。ウイルス変異の可能性を考えれば気を緩める ことはできませんが、それでも2020年度はじめに全国 一斉休校措置が取られた時期のことを思えば、私たちも ずいぶん慣れてきて、新型コロナウイルスと共存できる ようになってきていると思います。

そんな時期だからこそ、今、改めて意識したいのは、 感染症は新型コロナウイルス感染症だけではないという ことです。この3年間、新型コロナウイルス感染症以外 の感染症がほとんど流行しなかったこともあり、保育者 の間で感染症全体についての意識が下がってきているか もしれないことが心配です。

実は私が2018年頃に行っていた研修の資料にこんな 記述がありました。

「今後、安全面で心配になってくる可能性が高い案件。 感染症…インフルエンザ(脳症)、ノロウイルス、O157 等の腸管出血性大腸炎、B型肝炎、麻疹など→予防接種 を打たせない親、治療を受けさせない親をどうする?」。

ここに書かれている感染症はいずれも、もし園の子ど もたちに広まれば、時には命の危険がある感染症です。 学校保健安全法や学校保健安全法施行規則において「学 校で予防すべき感染症」であると定められたもの以外に も、適切に予防する方法を考えなければならない感染症 があるのです。感染症対策は園での重要なリスクマネジ メントの1つととらえ、普段から幅広い感染症の知識を 得て対策を考えておく必要があります。

最も重要で効果的な対策はワクチン接種です。前述し た研修資料で「今後心配になってくる案件」として掲げ た感染症の中でも、インフルエンザやB型肝炎、麻疹に はワクチンがあります。幼稚園での集団生活が始まる前 に、保護者が子どもに必要なワクチン接種を行っていれ ば安心ですが、中にはワクチンを必要以上に忌避する保 護者もいます。ワクチンを接種していない子どもが罹患 することで、園内に感染が拡がる可能性もあります。

これは私の体験ですが、長女が麻疹にかかって辛い思 いをしたことがあります。長女は熱を出しやすい体質 だったこともあり、私は初めての子育ての中で麻疹ワク チンの副反応を心配し過ぎ、打つ時期を逃してしまって いました。長女が4歳になった時、風邪をひいて行った 病院で、「もしかすると麻疹かもしれない」という他の お子さんとほんの一瞬だけ、同じ広い空間にいただけで 見事に麻疹に感染し、長女は2週間ほど入院しました。 GW中だったので園の他のお子さんに感染を拡げること

はなかったのが幸いでしたが、長女が苦しむ様子を見て 親として非常に辛かった経験から、次女と双子の長男・ 次男には1歳のお誕生日に麻疹のワクチンを接種しまし

打てるワクチンがあるなら確実に打つことが感染症の 最大の予防になります。在園児にはもちろん入園予定の 園児についても、ワクチン接種の有無や既往症について 確認し、その年齢までに打てるワクチンを打っていない 保護者には協力を求めましょう。海外では必要なワクチ ンを接種していないと学校に入学できないところもある と聞きます。もし、一切のワクチンが未接種の子どもが いれば、その保護者は何か大きな育児不安を抱えていた り、課題を抱えていたりする可能性もあると考えるべき かもしれません。

ワクチンや特効薬がないノロウイルスや腸管出血性大 腸炎の場合には、十分な予防対策が必要です。それらが どういったものから感染するのかを学び、自園ではどの ようなルートで感染する可能性が考えられるのか、それ に対してどのような対策を取れるか、チャートなどを作っ てさまざまなパターンを検討しておきましょう。看護師 がいない園では、園医など相談できる身近な小児科医等 に協力を仰ぎながら対策を進めていくと良いでしょう。

文部科学省や各自治体などからも園での感染症対策に ついての指針が逐次出されます。病気の種類やワクチン の種類、ワクチンの推奨接種期間、治療薬の種類、登園 禁止日数等、さまざまなことが頻繁に変わりますので、 常に最新のものを確認できるようにしておいてくださ い。特に、小児科学会から出ている「学校、幼稚園、認 定こども園、保育所において予防すべき感染症の解説」 ^(注1)は、非常に詳しく書かれているので、必要な感染症 について知りたいときにすぐ調べることができます。ま た、感染症についての研修があれば、看護師やリーダー だけでなく、保育者が積極的に受けることが必要でしょ う。保育者が、普段の生活の中で必要な対策のポイント を知っているかいないかで、感染症対策の質はずいぶん 違ってくると思います。

医療の発展は日進月歩です。ワクチンや治療薬の開発 によって、昔なら助からなかった命が助かるようになっ たことに感謝し、最大限に利用しながら、私たち保育者 は、園での感染症対策もリスクマネジメントの1つとし て力を入れていかなければなりません。

参考文献

注1:公益社団法人日本小児科学会「学校、幼稚園、認定こども園、保育所において 予防すべき感染症の解説」(2022年6月) https://www.jpeds.or.jp/uploads/files/yobo_kansensho_20220601.pdf

第13回幼児教育実践学会口頭発表(粕川幼稚園)

本誌では、令和 4 年 8 月 20 日(土)にオンラインにて開催された、第 13 回幼児教育実践学会の□頭発表の概要を掲載します。今回は□頭

子ども理解を深めるための同僚性のあり方

群馬県 粕川幼稚園/松村 芳子

研究協力者:大阪総合保育大学学長/大方 美香先生

8月20日にオンラインで開催されました「第13回幼 児教育実践学会」に【□頭発表Ⅱ-2】で参加させてい ただきました。今回のテーマである『「新しい時代を伸 びやかに生きる」 - 社会に開かれた質の高い幼児教育を - 』を基に群馬県私立幼稚園・認定こども園協会の研究 部の先生方と自園の研究内容を、幾度も研修会を重ね、 まとめて参りました。

研究初めは先ず「自園の保育を追求すること」でした。 良いところも悪いところも、とにかく様々な立場の先生 たちと話し合いを重ねました。そこで、園長として見え ていなかったこと、見ようとしていなかったことが明確 になりました。創立68年、伝統があるが故の若手指導 や保育硬直、今以上に子ども理解を深めるためにしなく てはならない保育改革など。そのような中で以前から取 り入れてみたかった「異年齢合同保育」をテーマの柱と し、そこから保育者同士の心のつながり(同僚性)も考 えてみたいと思いました。

研究テーマが決まり、先生たちも前向きでした。特に ベテラン・中堅の保育を見ながらの合同保育は、若手に とって「蒔かれた種をキャッチしていく大切な時間」で した。これは共同研究者の大方先生が本園の研究を表現 してくださった一言です。最初の話し合いで若手は「自 分の保育に自信がない」と話す姿がありました。そこか ら合同保育を通して他の先生たちの子どもの見方・保育 のやり方という大切な種を自分なりに掴んで育て、時間 をかけて咲かせていました。若手なりに成長していたの です。そこから焦らず、信じて成長を見守る大切さを学 びました。

実践学会当日の意見交換会でも経験や年齢の差でのコ ミュニケーションや考え方の違いに悩まれている先生方



が多くいました。仲間を大切に思い、声をかけていく。 価値観や考え方が違うのは当たり前。そこを踏まえるこ とで初めて心を割って保育を語り合うことができるので す。

今回の実践学会での研究を通して「同僚性」が子ども 理解を深める中で重要であると感じました。この「同僚 性」の深まりが保育へと活かされ、新しい時代を伸びや かに生きる子ども達の成長に必ず結びついていくと信じ ています。そして「笑顔」を合言葉に保育者自身も保育 を楽しんでいけたらと思います。

最後に、開催にあたりオンラインでの学会ということ で、多大なるご苦労があったことと思います。この場を お借りして感謝申し上げます。



URL:http://www.seaguil-yabe.co.jp E-MAIL:yabepro@seaguil-yabe.co.jp

〒179-0084 〒276-0026 〒330-0804 ₹981-3131 〒663-8104 ₹007-0834 〒811-0214 ₹464-0083 ₹721-0955 〒981-0504 〒981-0504

₹721-0955

東京都練馬区氷川台 3-21-14 千菜県八千代市下市場 1-13-8 埼玉県さいたま市大宮区堀の内町 2-1-1 宮城県仙台市泉区泉中央 1-47-1 アコーズ泉中央 103 兵庫県西宮市天道町 25-15 KIマンション IF 札幌市東区北 34 条東 14 丁目 3-1 マンション東豊1F 福岡県福岡市東区和白東 2-14-28 エクセル和白 103 受知県名古屋市千種区北千輝 2-3-18 1F 広島県福山市新涯町 3-27-8 宮城県東松島市小松字稔田 110

宮城県東松島市小松字稔田 108

広島県福山市新涯町 3-27-8

TEL 047-481-7723 TEL 048-640-3003 TEL 022-218-3217 TEL 079-869-6510 TEL 011-712-8088 TEL 092-605-5080 TEL 052-778-7272 TEL 084-953-8818 TEL 0225-82-8111 TEL 0225-82-8154 TEL 084-953-8818

TEL 03-6281-0025

FAX 045-361-3085





第13回幼児教育実践学会口頭発表(藤島幼稚園)

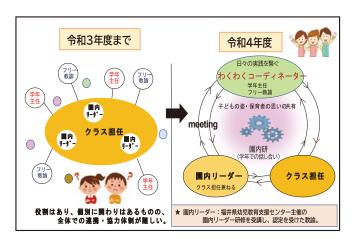
あそびをつなぐ「わくわくコーディネーター」による実践 ―「子ども」「保育者」「家庭」を繋ぐ組織マネジメントの在り方について―

福井県 藤島幼稚園 / 杉山 聡理 内田 美佳 鳥山 朋代 佐々木光江 中瀬 未来 舘岡 篤弥

研究協力者:神戸大学大学院教授/北野 幸子先生

●はじめに

藤島幼稚園では、子どもが主体的に遊びに取り組み、 それぞれの興味に合わせて多様な遊びを楽しめる環境を 充実させたいという思いから、これまでも園内研修を行 い、保育の質を高められるように工夫してきました。し かし、こども園になって職員数が増え、教諭同士の連携 がとりにくくなり、園全体で環境の充実を図ることが難 しい現状にありました。そこで、各クラスの様子や担任 の思いを総合的に把握し、遊びの環境をコーディネート する「**わくわくコーディネーター**」というチームをつく りました。週に一度、「わくわくミーティング」を開き、 各クラスの状況、子どもたちの姿を共有して、どのよう な環境づくりをしたらよいかについて話し合いました。



「わくわくコーディネーター」のとりくみ

①各クラスの遊びの様子や担任の考えを情報共有するた めに**「あそびを共有するシート」**を作成しました。週末 に、担任が遊びの様子をふりかえったものをまとめ、他

の職員からアドバイスや意見をもらって、翌週、全教諭 に発信し、環境づくりに活かしました。

②子どもたちの姿やつぶやきから遊びを繋げ、広げてい けるように**「こどものつぶやきシート」**を作りました。 フリー教諭が、担任のいない場での子どもたちの様子を 付箋に書きとめ、みんなで共有できるようにしました。

③「園内リーダー」と連携し、リアルタイムで保育実践 に活かせるような園内研修のあり方を考えました。

このように、様々な情報共有を行う中で、保育者が繋 がり、遊びの環境が多様になっていくことで、子どもた ちが自分の好きなことを思いきり楽しむ姿が増えました。



おひさまルーム(フリー教室)や 雨の園庭でも、あそびが広がり 異年齢の関わりも深まりました。



●実践を振り返って

わくわくコーディネーターとして、一人ではなく、チー ムで環境作りをしていくことが楽しく、色々なチャレン ジができました。また、わくわくコーディネーターが担 任や園内リーダーと繋がることで、保育者間の関係も密 になり、保育について気兼ねなく話す姿も増えました。 これからも、子どもたちの「やってみたい」に寄り添い、 みんなで「やってみよう」という気持ちを大切に、連携・ 協力しながら頑張っていきたいです。





自然な表情を撮影して

新たな価値提供を

園でのお子さまの日常を保護者さまに写真で お届け!「スナップスナップ」はカメラマン や先生の撮影をサポートします

株式会社ラボネットワーク



カブトムシを育てて、生命と出会った4歳の発達

福岡県とんの幼稚園/山本彩華

去年受け持った4歳児クラスの子ども達の1年の記録 を口頭発表で発表させていただきました。

カブトムシを育てようと思ったきっかけはK君という 一人の男の子。4月当初、目が合わず、話も聞かず、気 に入らないとプイッと廊下に出る。興味のない歌など もってのほか。歌いもせず、少々てこずっていました。 唯一「虫が大好き!」。花壇や草むらを這いずり回り虫 探し。時期を同じにして、地域の方から「カブトムシの 幼虫いりませんか」とお声がけいただきました。虫にの み熱中する姿にヒントを得て、もしかしたら…と小さな 期待をしつつ、カブトムシを飼う事にしました。しかし 私は「大の虫嫌い」。不安がいっぱいのスタートでした。 カブトムシを育て、観察・発見ごっこを沢山する事によっ て造形、音楽、運動ごっこに保育が展開していきました。 沢山の保育の中で、K君だけでなく、他の子どもたち も変化していきました。

引っ込み思案で人前で発表する事が苦手なNちゃん は、カブトムシの観察を通して自分の考えを言えるよう になり、みんなの前でも思った事を言えるようになりま した。

言葉が中々出なかったFちゃんもたくさん観察するこ とにより、言葉が出るようになってきました。

K君はカブトムシのおかげで部屋の中に入り、発見し た事を友だちに伝え、友だちのつながりが出来てきまし た。また、集中力や諦めずに頑張る気持ちが育ってきま した。

子ども達の言葉を聴き、子どもの言葉で保育を進めて いった1年。子どもには大人では考えつかない発想があ ります。子どもが色々な考えを思いつくには、沢山の遊 びを経験する必要があります。子どもの知識はまだまだ ですが、子どもが考えた事を実現させてあげられるのは



保育者の特権だと感じます。子ども達が「○○したい」「作 りたいから〇〇が欲しい」と意欲的に自主的にいえる環 境、信頼関係はとても大事なものです。その環境がある からこそ、子ども達が伸び伸びと自分がしたいことに向 かって遊びを追求できると思います。"子ども主体の保 育"これを大いに学んだ1年でした。子どもの声を聴き、 いい所をほめて伸ばし、自己肯定感をあげていくことが 子どもの大きな成長につながると思います。今回口頭発 表させていただく事で、自分の保育の振り返り、来年の 課題、よかったところなど振り返ることが出来ました。

私たちは幼児教育用品を通じ、幼児教育の質の向上に貢献します。









∿世界文化ワンダー販売



機構からのお知らせ

ゆたかなまナビを通じた、オンデマンド研修コンテンツの 追加配信開始のご案内

処遇改善等加算Ⅱに対応したオンデマンド配信による研修を、新たに計10コンテンツ、計15時間分の研修 動画を令和4年11月7日よりゆたかなまナビを通して配信しております。本研修は随時、研修スタンプを発 行しており、定員等もございません。また、この度配信するコンテンツは、各都道府県の私立幼稚園団体で、 すでに配信された研修の中から、全国の教職員の方に是非受講いただきたいコンテンツを選出しております。 是非、研修受講をご検討いただきますようお願い申し上げます。詳細は幼稚園ナビに掲載しておりますので、 ご確認ください。

【講習名/講師】

1. 幼少期における音楽教育のあり方 講師: 出原大(むぎの穂保育園園長)

2. 3歳児クラスの絵の具画の進め方 講師:永渕泰一郎(畿央大学准教授)

3. 豊かな遊びをさせる環境教育を考える ~10の姿に向かう主体的な遊びの構成要素~ 講師:安見克夫(東京成徳短期大学名誉教授)

4. 子どもの姿に基づく保育の実践と評価 ~カリキュラム・マネジメント~ (文部科学省マネジメント分野該当) 講師:北野幸子(神戸大学大学院教授)

5. 子どもが安全にすくすく育つ園づくり ~指針・要領に基づく保育実践から、子どもの健康 と安全を考える~

(文部科学省マネジメント分野該当) 講師:猪熊弘子(名寄市立大学特命教授) 6. これからの幼児教育に向けて (文部科学省マネジメント分野該当)

講師:秋田喜代美(学習院大学教授)

7. 子ども理解が深まるまなざしと保育者の専門性 -doing保育からbeing保育への転換を目指して-講師:井桁容子(非営利団体コドモノミカタ代表

8. 遊びから広がる幼児期の造形表現 講師: 佐川早季子(京都教育大学准教授)

9. 資質・能力を基盤とした教育とは何か ~幼小の連携・接続を中心に~ (文部科学省マネジメント分野該当) 講師: 奈須正裕(上智大学教授)

10. 育ちの理解と記録

講師: 味園佳奈(鹿児島純心女子短期大学准教授)

【受講申込期間】 令和4年11月1日(火) 13:00~令和5年1月16日(月) 17:00 【受講可能期間】 令和4年11月7日(火) 10:00~令和5年2月 6日(月) 17:00

【申 込 方 法】 幼稚園ナビより、申込を随時受付中でございます。ご不明な点等ございましたら当機構まで

ご連絡下さい。

私達は衝撃緩和帽の開発を通じて大切な子供達の未来を守ってゆきます!









企画・開発 株式会社リード 〒028-6104

岩手県二戸市米沢字家ノ上39-1 http://hot-anshin.com//index.php

お問い合わせはこちら 安心帽販売

TEL 090-8644-5654

